

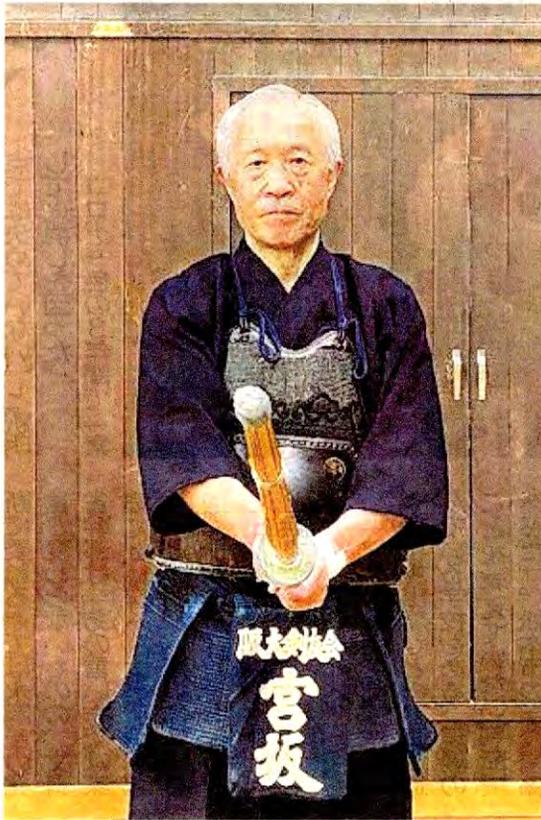
上田出身 免疫学第一人者の医師・宮坂昌之さん

まさに文武両道 剣道八段

最高位

上田市出身の医師で免疫学の第一人者として知られる大阪大免疫学フロンティア研究センター招へい教授、宮坂昌之さん(75)は大阪府高槻市に現在の剣道の最高位、八段に合格した。コロナ下で対人稽古の際のマスク着用による感染予防効果を調べ、対人稽古の再開に尽力。「文武両道」を胸に自らの鍛錬も続け、合格率が1%にも満たない最難関をくぐった。

上田市の開業医だった父の姿を見て医師を志した。中学校時代に父の勧めで竹刀を手にし、上田高校では団体戦でインターハイにも出場。その後しばらく剣道から遠ざかったが、京大卒業後、免疫学を学ぶために渡ったオーストラリアで再開した。30歳ごろ



大阪大の道場で竹刀を構える宮坂さん

だった。研究は夜中まで実験が続くなど不規則になりがち。だが稽古は生活のリズムを整えるのに役立つ。稽古で大きな声を出す仕事嫌なことも忘れられた。スイスの研究所に所属していた際も続けた。研究の一線を退いてからは大阪大の教職員が集まる朝稽古などに参加してきた。ほぼ毎日稽古。攻守の基本となる構えに癖が出ていないか鏡で確認し、竹刀が体の一部になるよう普段から木刀を持つようにして感覚を磨いた。だが、新型コロナウイルスが拡大した2020年4月、対人稽古ができなくなった。全日本剣道連盟(東京)が会員に対し、自粛を要請したのだ。意識的に大きな声を出すことが求められる剣道。稽古

研究の傍ら海外でも鍛錬

新型コロナ分析 対人稽古再開にも尽力

中の集団感染が相次いだからだった。そこで、アンチ・ドーピング委員長として連盟に関わる宮坂さんは、面の下にマスクを着けた際の感染予防効果を検証。口から出る飛沫にLED光を当てて可視化して測定し、飛沫の飛散が9割抑えられていることを証明した。「歴史ある剣道を続けるため、どうすべきかを考えた」と宮坂さん。連盟は20年6月、宮坂さんの検証データを基にマスク着用を義務化したガイドラインを制定。対人稽古自粛を解除した。八段合格は昨年11月、日本武道館(東京)で開いた審査会だった。800人近くが受け、合格者はわずか7人(合格率0.9%)。11回目の挑戦で「力まず自然体なのが良かった」と振り返る。後進たちには「我慢して焦らず一歩進んでいくことが大切。社会に出てから必ず役に立つ」とエールを送る。